

(九月のことば)

宗 家

行方知らずの二歳児を

二十分で三日ぶりに見つけた

尾島春夫さんに感動した

尾島さんは六十五歳で鮮魚を閉じ、残りの人生は社会に因返しと本格的なボランティア活動に入られたとか。

八月の感動に満ちた明るいのニュースは今更ここで述べる必要とありませんが、印象を月のことばにも残したく、ペンを執ります。

詳細は省きますが、その信念、覚悟と生き様を知られば知る程、この様な人もののかと頭が下がり、感動を深く致しました。

大勢の人が探索する中、生命も危ぶまれる時に駆けつけ二歳児に「よしきちゃん」と呼びかけた声も、神がかつたものを感ぜずにはおられません。欲得なく一心に邁進している姿があるからでしょう。

そのボランティアは「全て自己責任であり、人を頼ったり、物をせびつたり見返りは絶対いけな」お風呂を断るところか、お家にも入ろうとしたら、次女に、始めは頭をひねる事もありましたが、後には成る程と、深く感謝し、銘記した。これがほんとうのボランティアであるのかと。

又、彼はインタビュに心えて私共に向けて言うておられます。つやほり夢を持ち続ける、ちゅうことじゃないですかね。夢を持つたらそれに目標を立てて、計画を立てて、迷う事なく実行するのが、いんじやないですか。私はそうしているんです。

それを生きている為の生業、環境、立場は異なりしますが、心に深く刻みたいものと思っていました。

平成三十年九月